

## 事例研究報告

クラスみんなでスキルアップ、  
学年全体でレベルアップ2

～各クラスでの取組～



# 学年教員のねがい

クラスの課題に応じた目標を立てて指導に取り組み、

「クラスみんなでスキルアップ、  
学年全体でレベルアップ」していきたい

# 指導方法について（目標案）

PBSについての研修後、  
各クラスの教員で目標について話し合い



それぞれの実態に応じた課題を見つけ  
どのような力を身につけたいか考えた



以下、全6事例中3事例について、取組を紹介

# 事例 1 指導目標

## 生徒の実態

- ・ 集団が苦手 朝の日常生活の指導時間はなかなか次の行動につづることができない
- ・ 落ち着かない時はしゃべり続ける
- ・ タイマーが鳴ってもすぐに反応しない
- ・ 不安定な時に、やるべきことを促すと、一層不安定になる  
(大声を出す、ロッカーを蹴る、そばにある物を破る・壊す等)

## 担任の願い

時間を意識して行動できるようになってほしい

## 目標

連絡帳を10分以内に書き終えることができる

# アドバイザーからのアドバイス

- ・ 連絡帳を書く時間だけに絞らず、日常生活の時間にやるべき活動を細かくリスト化し、チェックリストを作成する
- ・ おしゃべり好きという特性から「聴覚で情報を理解している」と考えられる
- ・ チェックリストは最初から全てを本人に任せるのではなく、教員と一緒にするのもよい→最後の一つだけを本人の力でできるように促す
- ・ おしゃべりをうまく受け流しながら、チェックリストの項目への指さしをすることが有効である
- ・ できるようになれば、任せる項目を2つ、3つと増やしていくとよい

アドバイザーのアドバイスを受け、

指導目標を

時間を意識して、朝の一連の活動がスムーズにできる

に変更

# 指導手続き

- ①提示されたチェックリストをすべてこなしたら、朝の会までの残りの時間で工作ができることを確認する
- ②チェックリストを指さし、活動を読み上げる
- ③おしゃべりをうまく受け流しながら、指さしや言葉かけなどをして、活動を促す
- ④徐々に指さしや言葉かけをフェイドアウトしていき、一人でできる活動を増やしていく
- ⑤チェックリストの活動が終了（そうじまで）したら称賛し、工作セット（本人の希望する道具や材料）を渡す

教室に入る	
リュックをおろす	
先生と話をする	
リュックの中から 連絡帳を出す	
熱を測る	
着替える	
水筒をカゴにおく	
リュックを片付ける	
連絡帳を書く	
連絡帳をたなにおく (そうじ)	
工 作	
朝の会	

# 指導前後の記録

- 4 : 自分でチェックシートを確認して実施
- 3 : チェックシートを指差し支援
- 2 : 言葉かけ
- 1 : 教員と一緒に
- 0 : チェックシート無し

時間を意識して、朝の一連の活動がスムーズにできる





10/7


教室に入る	✓
リュックをおろす	✓
先生と話をする	✓
リュックの中から 連絡帳を出す	✓
熱を測る	✓
着替える	✓
水筒をカゴにおく	✓
リュックを片付ける	✓
連絡帳を書く	✓
連絡帳をたなにおく (そうじ)	✓
工 作	✓
朝の会	✓

9:23

朝の会開始前 (9:30まで) に朝の活動の全てを終わらせることができた★

11/17

教室に入る	✓
リュックをおろす	✓
先生と話をする	✓
リュックの中から 連絡帳を出す	✓
熱を測る	✓
着替える	✓
水筒をカゴにおく	✓
リュックを片付ける	✓
連絡帳を書く	✓
連絡帳をたなにおく (そうじ)	✓
工 作	✓
朝の会	✓

9:05 

すばらしい!!

9:05に朝の活動の全てを終わらせることができた★

# 指導の効果

連絡帳を書く時間だけに絞らず、日常生活の指導の全ての活動を細かくチェックしながらすすめることで

朝の会開始までに、ほぼ掃除も終了し、ごほうびである「**工作する時間**」を得ることができるようになった

# 今後の対応・展開

- ・引き続きチェックリストを使用し、活動から逸れてしまった行動を引き戻す
- ・他の授業でもチェックリストを使用し、生徒のパフォーマンスを100%発揮できるようにする

# 事例 2 指導目標

## 生徒の実態

- ・ 多動で衝動性が強い
- ・ 教室をウロウロし、落ち着きがない

## 担任の願い

卒業後の生活を意識して  
落ち着いて行動してほしい

目標

朝の日常生活の指導時間にスケジュールに沿って行動することができる

# アドバイザーからのアドバイス

- ・ チェックリストを作ることで活動の見通しが立つようにした方が良い
- ・ プロンプトを入れるタイミングに注意する  
(早め早めに入れることで問題行動を出させないように)  
例えば、10秒待ってできなければプロンプトを入れる  
(声かけ、指さし等)
- ・ できたら○印をつけて、しっかりと誉める

# 指導手続き

## 介入1 教室

- ①スケジュール表を机上に提示する
- ②活動が止まったら10秒後にプロンプトを行う
- ③活動ができるごとに教員がチェックをして、こまめに称賛する
- ④朝の準備が時間までにできたらごほうび活動（洗濯機のスイッチを入れる）を行う

介入2 個室（指導の手続き①～④は同じ）

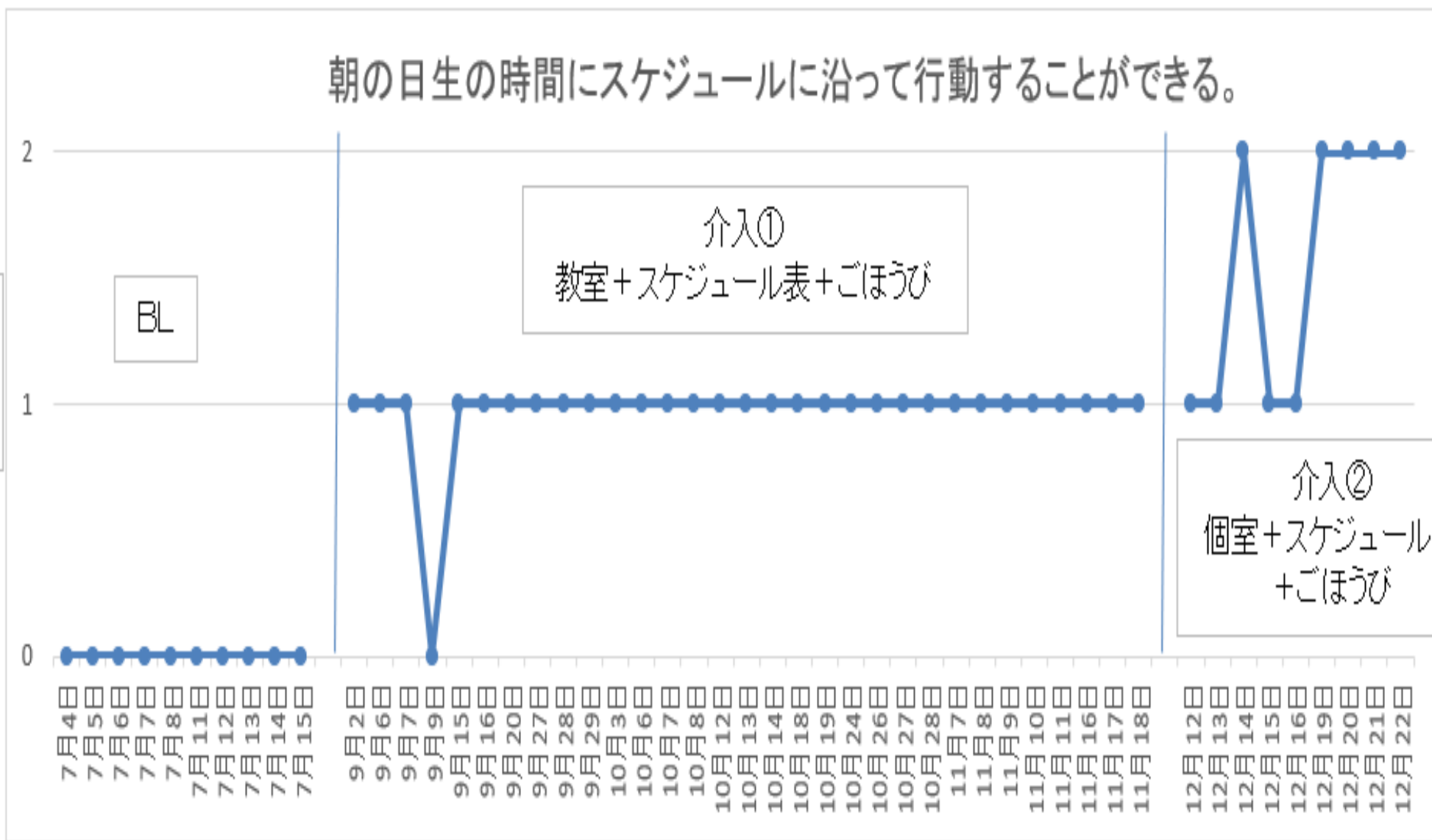
# 朝のスケジュール表

「すること」の各項目が終われば、教員がチェックする

すること	チェック
検温	
検温の記入	
着替えをする	
連絡帳を出す	
カバンの片づけ	
連絡帳を書く	
連絡帳の片づけ	
そうじをする	
座ってまつ	

# 指導前後の記録

プロンプトなしでできた2  
プロンプトありでできた1  
できなかった0





# 指導の結果

## 介入 1 教室でクラスの仲間と活動をしているとき

- ①プロンプト（直接手を持つ）で行動を促すと、次の行動に移ることができた
- ②教員がプロンプト（直接手を持つ）を外すと、他の教室に入ったり、廊下を走り回ったりした

## 介入 2 個室指導となり一人で活動をしているとき

- ①刺激が少なく落ち着いて活動できることが増えた

個室での指導とご褒美を設定することで、目標をほぼ達成することができた

# 今後の対応・展開について

- ・ チェックリストを他の場面でも活用する
- ・ 問題行動にはリアクションしないようにする
- ・ 問題行動以外の本児からのコミュニケーション行動を強化する
- ・ 本児が周りから注目を獲得できているかについてその満足度を調べ、教員が定期的に本児に注目することで、問題行動の予防をする
- ・ 徐々に個室から教室での活動に戻していく

# 事例 3 指導目標について

## 生徒の実態

- ・ 言葉かけすれば検温をすることができる
- ・ 継続して検温することができず、不平をいう

## 担任の願い

卒業後の生活を意識して、  
自主的に行動できるようにしてほしい

目標

教員の言葉かけなしで、検温することができる

# アドバイザーからのアドバイス

①本人が記録する方法を○×の記入にするなど検温に対するハードルを下げる

②検温の時間や回数などの根拠を調べる

③本人が納得するようにする

# 指導手続き

① 非接触型体温計を教室に置く



検温に対するハードルを下げる

# 指導手続き

## ② 検温の意義や必要な回数を生徒と一緒にiPadで調べる

### 毎日必要な感染予防の基本について（検温・手洗い・咳エチケットなど）

[ツイート](#) [シェアする](#) [LINEで送る](#) 更新日：2022年1月21日

新型コロナウイルス感染者が、市でも確認されています。  
市民の皆さまには、検温や手洗い、咳エチケットなどの予防対策をあらためてお願いするとともに、正確な情報に基づく冷静なご対応をお願いいたします。

- ▶ [新型コロナウイルス感染症について（群馬県ホームページ）](#) [外部リンク](#)
- ▶ [新型コロナウイルス感染症についてについて（厚生労働省ホームページ）](#) [外部リンク](#)
- ▶ [新型コロナウイルス感染症に備えて～一人ひとりができる対策を知っておこう～（首相官邸ホームページ）](#) [外部リンク](#)

### 検温・行動記録

毎日、体温を計測したり、体調を記録したりすることで、体調不良に早く気づくことができます。また、発熱などで医療機関を受診する場合は、一緒に記録表を持っていきましょう。

[体温・行動記録表（15KB）\(excel文書\)](#)

### 医療機関へ相談・受診の前に心がけていただきたいこと

- ▶ 発熱等の風邪症状がみられるときは、学校や会社を休み外出を控える。
- ▶ 発熱等の風邪症状がみられ、受診を考えている場合は、まずかかりつけ医に必ず電話で相談しましょう。

[自分や家族が新型コロナウイルス感染症にかかったかもしれないと思ったら（相談窓口・相談方法）](#)

### 手洗い

目に見えない病原体（ウイルス）が、直接または間接的（ウイルスがついている物をさわるなど）に手指につき、口などから体内に入ることによって感染をおこします。病原体を手指から落とすには、流水・石けんで十分に洗うことが大切です。

豊岡市ホームページより

# 毎日必要な感染予防の基本について （検温・手洗い・咳エチケット）

## 検温・行動記録

毎日、体温を計測したり、体調を記録したりすることで、体調不良に早く気づくことができます。また、発熱などで医療機関を受診する場合は、一緒に記録表を持っていきましょう。

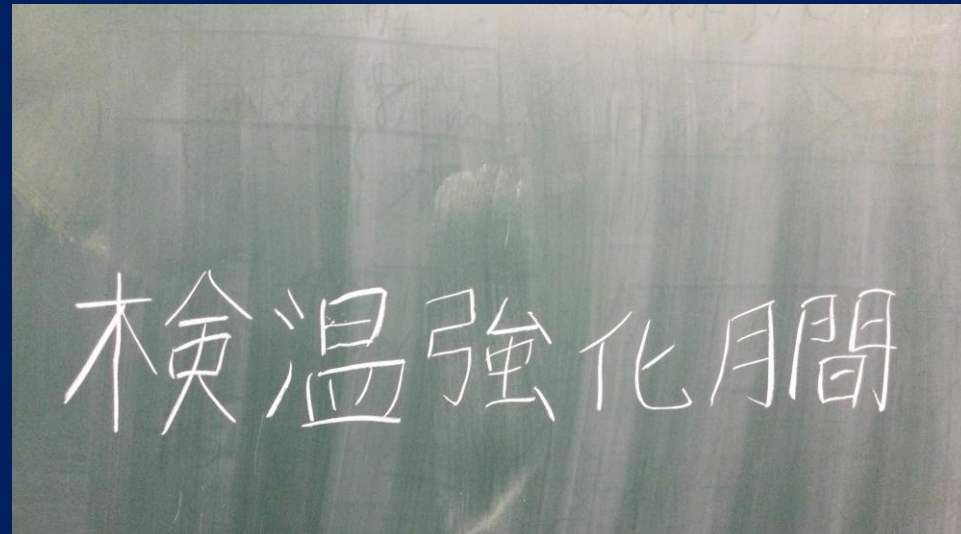
[体温・行動記録表（15KB）\(excel文書\)](#)

[医療機関へ相談・受診の前に心がけていただきたいこと](#)

毎日、体温を計測したり、体調を記録したりすることで、体調不良に早く気づくことができます

# 指導手続き

③ クラス全体で検温する雰囲気づくりを行う



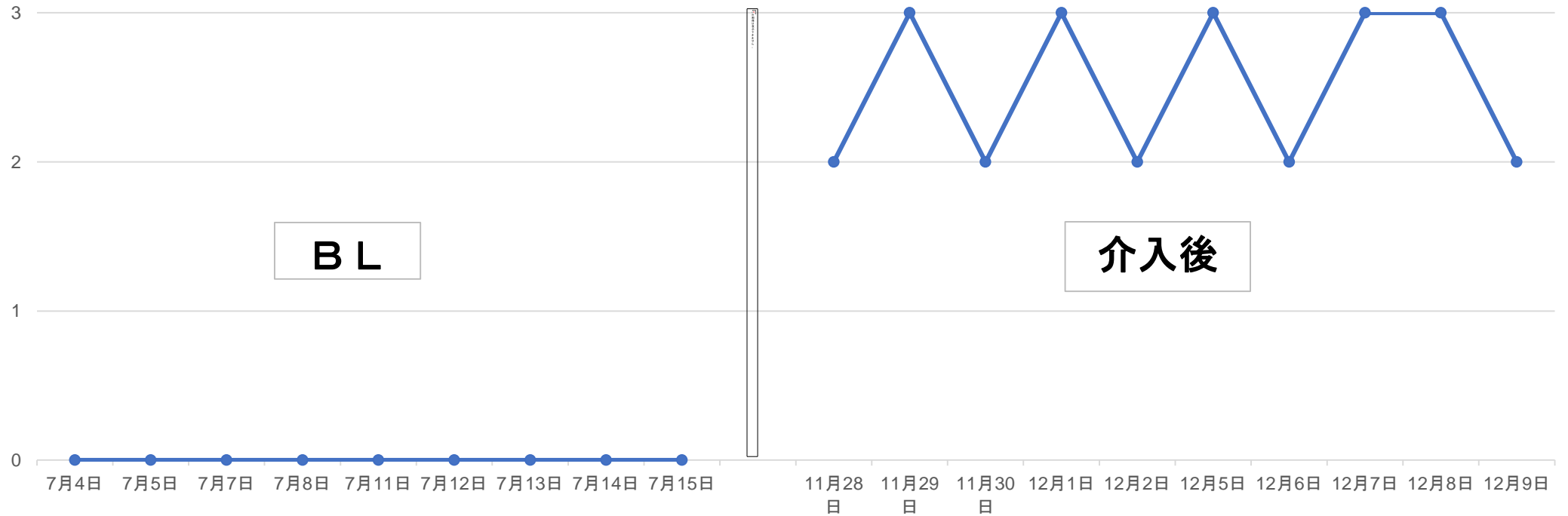
就業体験で体温チェック表を提出する事業所もある！



# 指導前後の記録

教員の言葉かけなしで、1日3回  
検温することができる

一人で  
できた  
回数



# 指導の効果

- ① 3回の検温を自らできる回数が増えた  
(登校後、給食前、帰りの会の前)
- ② 腋下体温計から非接触型の体温計に変えたことで、  
検温に対するハードル(費やす時間の短縮)を下  
げたことで、実施しやすくなった
- ③ 自分自身で感染症対策について検索し、納得する  
ことで検温することに対して、不平を言うことが  
なくなった

# 今後の対応・展開について

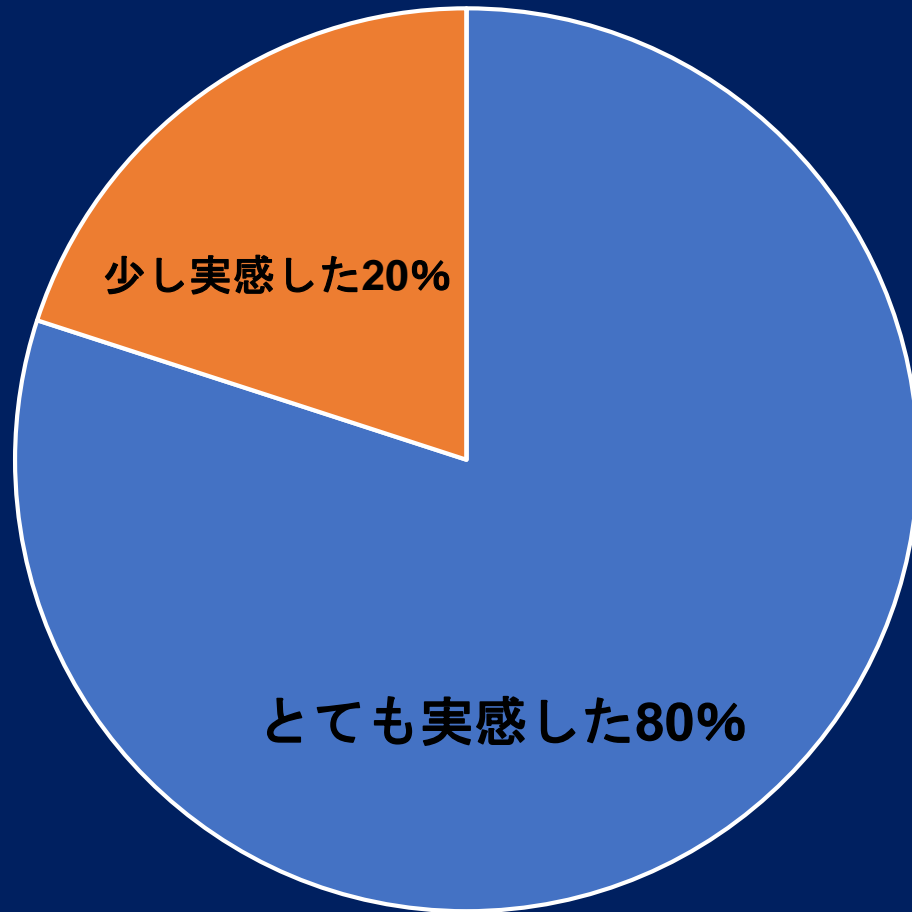
本人が納得感を得られていないことが理由で、活動に取り組めない場合



活動をすべき理由について、本人が納得できる公式な見解を一緒に調べ、説明をする

# 実践後の教員へのアンケート結果

実践を通して生徒の成長を実感できたか



□とても実感した □少し実感した □実感しなかった

教員で協力できたか



□とてもできた □少しできた □協力できなかった

# 成果と課題（事例1～6の担当者より）

## ①成果

- ・言葉掛けせずチェックシートを利用しただけなのに、生徒の動きがスムーズになった 学校以外（就業体験先など）の場面でも利用できそうな気がする
- ・生徒の特性に合わせて環境を整えることで、できなかつたことを自分で進んでできるようになった
- ・生徒の特性に合わせた指導のポイントを教えていただき、実行して生徒の動きがスムーズになった
- ・行動を細かく分けて考えることを再確認できた

## ②課題

- ・「記録の方法」・他の場面に応用できるようにする
- ・よくなった状態を今後維持していく

今年度のコンサルテーションを通して、

実行した直後の効果を今後 1 年、2 年と継続して  
いけるようにすることが課題ではあるが、

全体としては

「生徒の成長を実感した」教員が圧倒的に多く、  
学年全体で取り組んだ成果は非常に大きい